

CASBEE神戸ver.1
(仮称)神戸製鋼所新本社ビル

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.1

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.1 [original/C

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								4.1
Q1 室内環境			0.40					3.7
1 音環境		3.5	0.15	-	-			3.5
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.8	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能	建具の遮音性能はT-2を確保	5.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		2.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	天井はロックウール化粧吸音板、床はタイルカーペットを採用	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性	ゾーニングを行っており、かつペリメーターでは冷暖選択可能	4.0	0.38	-	-			
5 湿度・湿度制御		-	-	-	-			
6 層別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		4.1	0.25	-	-			4.1
3.1 屋光利用		4.0	0.30	-	-			
1 屋光率	横連窓による屋光率の確保	4.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 屋光利用設備	外光をセンサーで検知し、屋光と合わせた照度になるよう自動調光	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 屋光制御	建物内部のブラインドに加えて、外装部に庇を設置	4.0	1.00	3.0	-			
3 機械送風対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	明るさセンサーにより自動調光	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		4.4	0.25	-	-			4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	建築材料はF☆☆☆☆を基本とする	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 シンナー対策		-	-	-	-			
4 ショール対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		1.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	給気口と排気口は異なる建物面に設置、かつ6.0m以上の離隔を確保	5.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視	中央管理装置でモニタリング	5.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	喫煙エリアを1階と屋上の屋外に設置	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			4.1
1 機能性		4.3	0.40	-	-			4.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	各階4カ所のEPSにて配線ルートを確保	5.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	執務室の天井高を2.7m、屋外の情報を得られる窓を四方に確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	自販機を設置。女子便所にパウダーコーナーを設置	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画	VIP空間に木目調素材を使うなど、高級感を照明と一体で演出	5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚・防水加工をしたタイルカーペット等を使用	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	清掃用居室には必ず洗い場を設置	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.9	0.31	-	-			3.9
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法レベルの1.25倍以上の保有水平耐力とする	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁にPC埋込み型タイルを採用	5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数25年の天井ボードを使用	5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給排水管に期待耐用年数40年以上の配管を使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			4.6	0.19				
1	空調・換気設備	災害時に避難場所となる講堂と電気室等の空調・換気設備が運転可能	5.0	0.20				
2	給排水・衛生設備	受水槽に中間仕切りの設置、災害時のWC使用箇所の確保	5.0	0.20				
3	電気設備	非常用発電機と二回線受電方式の採用	5.0	0.20				
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20				
5	通信・情報設備	通信手段の多様化と主要機器を上階に設置	5.0	0.20				
3 対応性・更新性			3.8	0.29				3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31				
1	階高のゆとり	階高を最低でも4.25m確保	5.0	0.60	3.0			
2	空間の形状・自由さ	センターコアとすることで空間の形状・自由さを確保	4.0	0.40	3.0			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0			
3.3 設備の更新性			4.0	0.38				
1	空調配管の更新性		3.0	0.17				
2	給排水管の更新性	天井懐に配慮し更新スペースを確保	4.0	0.17				
3	電気配線の更新性		3.0	0.11				
4	通信配線の更新性	OAフロア内配線	5.0	0.11				
5	設備機器の更新性	2階電気室更新スペース確保	5.0	0.22				
6	バックアップスペース	2階サーバー室更新スペース確保	4.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		生物多様性に配慮した、地域の拠点となる森づくり	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		外装は落ち着いた色合いとし、良好な景観を形成	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	1階部分の周囲をピロティとすることで、豊かな中間領域を形成	5.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	排熱機器の多くを屋上に設置	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制			4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	ライトシェルフや自然換気システムの設置	4.0	0.50	-	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを設置	4.0	0.50	-	-	-	
3 設備システムの高効率化		全熱交換器の採用、昼光利用等	5.0	0.30	-	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=48.9%	5.0					
集合住宅の評価			3.0					
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	-	4.0
4.1	モニタリング	部位別に消費エネルギー量を監視	4.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ照明の運用	4.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材:フロアリュウムプレーン(t=2)、マチコV、ロイヤルウッド(全て東リ)	5.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	システム天井を採用	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤は指定化学物質が含まれていないものを使用	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤	消火剤にN2ガス、移動式粉末消火設備にCO2ガスを使用	4.0	0.33	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン湿式不燃断熱材を使用	5.0	0.33	-	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		杭に高炉セメントを利用	4.4	0.33	-	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	-	3.8
2.1	大気汚染防止	ガス給湯器のNOx排気濃度レベルは瞬間最大で23.2ppmの製品を使用	4.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	建物の断熱性を高める事に加え、地表面にも緑地を多く設けた計画	4.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースを確保	5.0	0.33	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	